

Road to Doctor



みなさんいかがお過ごしでしょうか？2015年も気づけば残りわずかであつという間ですね!!今年は暖冬らしいですが、「気を抜いて薄着でいたら風邪をひいてしまった・・・」なんてことにならないように体調管理には注意して新年を迎えましょう!!さて、今回のRoad to Doctorは先月開催された「民医連・北海道東北地協合宿in沖縄」について報告します。弘前大学はもちろん、北海道・東北の医学生が参加した合宿。医師を目指す者としてさまざまな問題を抱える現在の沖縄県を通して平和と医療への想いを学んできました。民医連では前回紹介した「医学生のつどい」にも今回の合宿のような各地の医学生と友達になれる企画が目白押し!!みなさんも医学部に入ったなら参加すること間違いなしです★また、その他にはこの冬開催予定の「冬の高校生1日医師体験」や「奨学金制度説明会」のお知らせなどが盛りだくさん!!記事や企画のお問い合わせはLINEでも気軽にできるから入ってみてくださいね♪



民医連・北海道東北地協合宿in沖縄 「医学生が見た沖縄の“今”」

11月21日(土)から23日(月)にかけて「2015年北海道東北地協医学生合宿」が沖縄県で開催されました。青森民医連から9名の医学生と2名の医師、全体では東北大学や山形大学、旭川医大など11の大学から27名の医学生が参加しました。ひめゆり平和祈念館や平和の礎はもちろん、現在問題となっている普天間基地や辺野古にも行き、医師を目指す学生として「社会に目を向け戦争と平和・医療」について考える大切さを体験・交流を通してきました。今回はそんな社会と真剣に向き合ってきた医学生の学びを紹介します。



座波 政美 医師

1日目は『沖縄民医連の平和活動』と題して座波政美医師(沖縄民医連会長)から学習講演がありました。講演では、どのようにして太平洋戦争で沖縄県民が「捨て石」にされたかに始まり、戦争終了後、米軍占領下から現在に至るまでの歴史をお話いただきました。そのなかで

「国と米軍による負担にあえぐ沖縄県民の健康をなんとかしたい」という想いから生まれた沖縄民医連の歴史と取り組みが紹介され、「医療者もオール沖縄の想いで闘っている。将来医師になるみなさんにもぜひ自分たちの社会のこと、国のことを考えてほしい。」と医学生に熱く訴えていました。

学習講演後はバスでガイドの山内榮先生(沖縄基地問題研究家)の解説を聞きながら、『ひめゆり平和祈念資料館』に向かいました。そこではひめゆり学徒の生き残りである上原当美子さんの証言ビデオを鑑賞しました。「生き残って申し訳ない、死ぬばよかった。でもやっぱり生き残って良かった。2つの思いの繰り返しにずっとずっと悩み苦しんできた。・・・ただわかることは平和のための戦争などない。あるのは人と人の殺し合いだということです。」戦争を知らない世代からはとても想像できない体験をされた人の言葉や戦争当時、実際に使用されていた器具や亡くなった若者の写真などの展示物を医学生達は真剣な目で見ていました。その後一行は「韓国人慰霊塔」と「平和の礎」を見学に行き、夜の交流会で『沖縄戦とは何だったのか？戦争と平和とは？』をテーマに学生同士で考え、議論してみんなで平和への想いを横断幕にして作りました。



ひめゆり平和祈念資料館



普天間基地に並ぶオスプレイ

2日目は沖縄にある米軍基地周辺を見て回りました。宜野湾市にある嘉数高台公園では展望台に登ると街中にある普天間基地が良く見えます。オスプレイが整然と並ぶ光景はまさに新聞やテレビで見るニュースそのものです。街中にある『世界一危険な基地』を目前にして医学生たちは驚きと同時に複雑な表情を浮かべていました。その次は町面積の82.6%が米軍基地で占める嘉手納町へ移動しました。「基地の中に沖縄がある」という皮肉を体現したそこで、現在は黙認耕作地になっている「安保の丘」と呼ばれる嘉手納基地の様子が見える所で広大な滑走路や軍用機を視察しました。



真剣に議論する医学生たち



辺野古の海で集合写真

名護市辺野古の海にも行きました。『埋め立て承認取り消し問題』で現在、翁長知事と政府が争っている場所です。緊張している人もいましたが、実際に行ってみると穏やかで美しい海が広がっており、想像と違う景色を目の前に医学生達は驚きを隠せませんでした。そこで地元の方から現在に至る工事の状況を聞き、「想像していた危なさとは少し違った。」「本当に綺麗な海でびっくりした。どうして国はこんなに綺麗な海を埋め立てようとするのか理解できない。」「自分もここが地元ならきっと守りたいと思っただろうなあ。」といった声が出ました。

最終日に行われた閉会集会では合宿を振り返り、今後医師を目指す人間としてどうしていきたいかを話し合いました。今回の合宿で医学生は戦争の悲惨さ、平和と医療について『医療者としての平和の追求』を自分の体で学びました。安全保障で大きな議論がある一方、依然として医療・福祉の社会保障費の財源確保で深刻な問題を抱え続ける現在の日本で医師を目指す者として『命を守る、弱者を守る医療そして社会はどうあるべきか』を真剣に考えることはとても大切なことです。医学部を目指す高校生のみならずも広い視野で自分たちが生きる社会に大きな興味・関心を持って学んでほしいと思います。

健生病院!リニューアル建設始動!!

高校生1日医師体験でもおなじみの弘前市の健生病院が2017年10月完成予定に向けてリニューアル工事が始動!!

緩和ケア病棟 & 地域包括ケア病棟新設
HCU増床 & 救急車年間受入 3,000件
より地域に求められる病院へ...



完成予想CG

冬の高校生1日医師体験のお知らせ

今冬も高校生1日医師体験を開催予定です。日程が決定しましたのでお知らせします。

- 健生病院 12/21(月)・1/6(水)
- 藤代健生病院 1/7(木)
- 健生黒石診療所 12/22(火)・1/8(金)
- 中部クリニック 1/6(水)・1/7(木)
- あおり協立病院 1/7(木)・1/8(金)
- 生協さくら病院 1/7(木)
- 八戸生協診療所 12/22(火)



夏の様子(青森)

Road to Doctor 11月号の感想

- 今まで気にとめていなかった自殺未遂者の現状を知ることができてためになった。PN.よーこ
- 「断らない救急」健生病院ERとSW、藤代健生病院の連携が素晴らしいと思った。PN.MJ and more・・・!!
- 医療格差の記事が非常に興味深かったです。PN.アカ

皆さんの声が紙面づくりに生かされます!!今後も皆さんの感想、ドシドシお待ちしております。

青森民医連奨学金制度

青森民医連には「医学生奨学金制度」と「高卒生奨学金制度」の2つの奨学金制度があります。

●医学生奨学金制度(右表上)は、日本全国の医学部(医学科)に在籍する医学生が対象です。返還義務がありますが、卒業後一定期間、青森民医連加盟の医療機関に勤務してもらうことで返還が免除されます。

●高卒生奨学金制度(右表下)は、高校卒業後、医学部(医学科)への合格に向けて勉強している30歳までの方が対象です。貸与期間は3年まで。返還義務がありますが、医学部(医学科)合格後、医学生奨学金制度に移行し、青森民医連加盟の医療機関に勤務すると返還が免除されます。

どちらも時期・学年を問わず随時募集しています。詳細は、下記連絡先まで気軽にお問い合わせください。

◆医学生奨学金制度		
	特別奨学金	一般奨学金
入学金貸与	あり(1年次のみ)	なし
奨学金貸与額	20万円以内/月	10万円以内/月
定員	各学年5名	なし
返還免除の条件	卒業時に返還義務が生じますが青森民医連に勤務すると返還が免除されます	
	貸与期間の1.5倍	貸与期間の1.0倍
◆高卒生奨学金制度		
	コース①	コース②
貸与額	10万円/月	20万円/月

LINEグループに入ろう!!



学生担当職員の矢作とLINEで友達になると「青森民医連高校生の広場♪」に招待するよ!!みんなも入って情報をGETしよう☆

